

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	各部構法計画小委員会		主 査 名：信太 洋行 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)		委員長名：小野田 泰明 主 査 名：岸本 達也
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「構法の情報化」に関する研究を推進すること</li> <li>・「構法史」に関する研究を推進すること</li> <li>・最新構法事例に関する講演会・見学会を企画し、研究と実務の交流を行うことの3つを目的とする。</li> </ul> <p>「構法の情報化」は前身の各部構法小委員会でも検討してきた構法写真データベースの開発を継続し、蓄積された情報の一部を「構法アトラス」として出版すること、また既存の構法情報の BIM 対応化を目標とする。</p> <p>「構法史」については「近代建築作品の構法解説本」の出版を当座の目的とし、様々な建築作品の公法的分析について知見を広く蓄積することを目指す。二つの研究課題についてはそれぞれ WG を設置し、毎回の小委員会で進捗状況について議論する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：信太 洋行 (東京都市大学) 幹事：熊谷 亮平 (東京理科大学) 委員：小見 康夫 (東京都市大学)、池尻 隆史 (近畿大学)、奥村 誠一 (青木茂建築工房) 加戸 啓太 (千葉大学)、石田 航星 (早稲田大学)、前島 彩子 (明海大学)、 小久保 彰 (駒沢女子大学)、岡路 明良 (鹿島建設)、門脇 耕三 (明治大学) 佐藤 孝一 (金沢工業大学)、江口 亨 (横浜国立大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>構法アトラス研究 WG：</b> 建築生産に ICT が深く浸透しつつある現在、構法計画学も情報化技術を前提に、時代に沿うべく対応してゆく必要がある。本 WG は以下の2つを主な活動目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究者・実務者が保有する、建築構法関連写真の資産をネット上で共有しつつ、それらを基に写真集「建築構法アトラス (仮称)」の出版に向けた準備活動を行う。</li> <li>② 構法計画の主要な目的の一つである「部位のまとまりと生産のまとまりのコーディネート」を BIM 上で効率的に行うための調査・検討を行う。</li> </ol> <p><b>構法史の確立 WG：</b> 建築構法の歴史的な側面についての研究は、これまで十分に行われてきたとはいえないが、近現代の構法についても失われるものが生じつつあり、その意義と必要性は高まっている。そこで本 WG では、構法史研究の端緒を開くことを目指す。具体的には、特定の近現代建築作品について、当該作品を取り巻く建築生産システムや現地の在来構法などを踏まえながら、その構法を分析し、分析結果を蓄積することを通じて、研究課題を明確にするとともに、構法史研究の見通しを整理する。</p>		
2020 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home">https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)、3 回 (構法史の確立 WG)

刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	1.
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. オンライン構法系研究発表会 2. オンライン・対面レクチャー 参加者数 33名 参加者数 30名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. [構法アトラス研究 WG] 現在、小委員会では「建築構法アトラス (仮称)」の準備作業として、投稿用に構築した (オリジナルの) ホームページを用い、委員より写真と文章の投稿を募り、130 枚強の写真データを収集している。今年度より、2 名の新規委員をお迎えしたため、システムの概要や投稿方法等の情報共有を行った。</p> <p>2. [構法史の確立 WG] 2020 年 9 月 10 日、構法系小委員会 (各部構法計画小委員会+木造構法小委員会+建築・空間ストック活用小委員会) 合同でオンライン研究発表会を開催した。主な内容は、「①既存ストック活用とノーテーション」「②構法史・構法変遷」「③工業化住宅・ノンエンジニア住宅」で、WG の活動成果が報告された。具体的には、戦後木造庶民住宅の増改築履歴調査やクリスタルパレスのリバースエンジニアリング、工業化住宅の商品動向等、多岐にわたっている。 後の討議では、構法分野における建築家の役割や歴史的建築物の人文科学的視点による研究の可能性、各年代の構法を批判的にみる等の意見があり、これからの構法史研究の展望を議論することが出来た。また、この延長として、オンライン WG を 2 回開催し、構法史に関する議論を深めた。</p> <p>3. [最新構法事例に関するレクチャーの開催] 2021 年 1 月 29 日の委員会時、株式会社吉匠建築工芸の吉川氏をお呼びして「宮大工と BIM」をテーマにレクチャーを開催した。参加者は、他の構法系小委員会や建築生産 BIM 小委員会、学生等 30 名程度。 宮大工の暗黙知と 3D 表現による形式知に大きな差があることや、従来の方法による技術の伝承と新技術の活用 (BIM、点群、AR 等) のバランスが課題であること等、議論を通じて明らかとなった。実務者と研究者の交流の大切さを再認識したため、今後も委員会等で継続的に話す機会を設ける予定。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 構法アトラス研究 WG においては、新規委員を含め継続的に写真等の情報収集を進めている。今後は、一般公開する可能性を考慮し、写真の公開の可否に応じた仕組みを考える必要がある。</p> <p>2. 構法史の確立 WG においては、今年度のオンライン研究会による成果に手ごたえを感じた。但し、学生が議論に参加するケースが少ないため、今後は発表中のチャット機能を積極的に使う等、学生の参加障壁を下げる工夫が課題となる。また、AI や IoT 等の議論が活発化しているため、デジタル技術を取り入れた研究方法も検討する必要がある。</p> <p>3. 「宮大工と BIM」をテーマとしたレクチャーでは、実務者と研究者間での交流の必要性が明らかになった。研究者が実務から離れてしまうと、構法研究の内容や領域が限定されるため、事例見学会やレクチャーを通じてパートナーシップを築き、他分野にも開かれた意見交換の場を設ける必要がある。</p>